#### サウンドデザイン演習 (女子美術大学)

【講義4】- バロック期において音楽とはいかなるものであったか ~ 絶対王政・激情・ことば・オペラ

講義担当:石井拓洋

takuyo.ishii @ gmail.com



画像: DVD 「モンテヴェルディ:歌劇《オルフェオ》リセウ大歌劇場2002」 [COBO-6250] より (C.モンテベルディ, 1606年作曲)

「中世からルネサンスへむけての西洋音楽史は、

『宗教から生まれた音楽が、徐々に裕福な貴族のための

快適な楽しみへ移行していくプロセス』として

理解できるだろう

[岡田暁生:66]

#### バロックの音楽の時代背景

- 時代 (1600-1750)
  - ルネサンス音楽(1200頃-1600頃) のあと。
- 政治的背景 = 「絶対主義」
  - 16C-18Cのヨーロッパ
  - 国王が行政・司法・軍事等を、誰の制約も受けず行使 する政治体制
  - → オーストリア「ハプスブルグ朝」 (マリー・アントワネットの生家)
  - → フランス 「ブルボン朝」(ルイ14世 "太陽王" 在位 1643-1715)
  - → ロシア 「ロマノフ朝」(エカチェリーナ2世, 第8代ロシア女帝, 在位 1762-1796)
  - → イギリス 「チューダー朝」(エリザベス1世, 第5代英国女王, 在位 1558-1603)

### バロックの音楽の時代背景

- ・ 絶対王政の背景
  - 「王権神授説」 神から王権を付託されたとする考え。これに基づいて 国王はローマ教皇の権威から独立し、人民を支配した。
    - ex. 新約聖書「ローマの信徒への手紙」第13章 1·2節 (絶対王政がその理論的根拠とした聖書の記述の一つ)

「人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威は すべて神によって立てられたものだからです。従って、権威に逆らうものは、神の定め に背くことになり、背く者は自分の身に裁きを招くでしょう」(ロマ書 13-1,2 。新共同訳)

#### バロックの音楽の時代背景

- 「バロック」 baroque の 美意識
  - バロックとは「いびつな真珠」の意味
  - ルネサンスと比較して「美術の趣味が悪い」という否定的な語
  - ルネサンス (調和の美) ⇔ バロック (劇的な美)

音楽の拠点 → イタリア (フィレンツェ,ローマ,ナポリ)
 フランス (ヴェルサイユ)



イタリア・バロック美術の代表 ベルニーニ 彫刻と建築 『聖女テレジアの法悦』 (1645-1652)





サンタ・マリア・デッラ・ヴィットーリア教会コルナロ礼拝堂 (ローマ)



ベルニーニ作 『ルイ14世胸像』 (1665) 大理石、 ベルサイユ宮殿 ディアナの間



Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

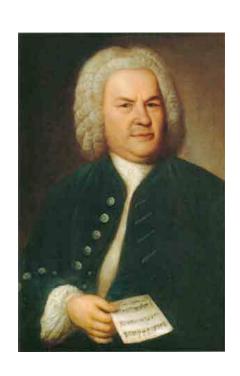
**A** . (想定される模範的解答)

J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

or

G.F.ヘンデル Georg Friedrich Händel (1685-1759)

#### J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)



- 🕟 《2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調》 BWV1043 「第1楽章」

Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

A . (想定される模範的解答)

J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

or

G.F.ヘンデル Georg Friedrich Händel (1685-1759)

しかし、本当に、彼らの作った音楽こそが、まさにバロック的といえるのか?

それでは、 「バロック音楽」の内実とは?

#### 2つの側面から探るバロック音楽

1. 社会機能的側面

2. 音楽書法的側面

#### バロック音楽の社会機能的側面

この時代 (16C~18C) の 西欧の「社会」とは

# 「絶対王政」の時代



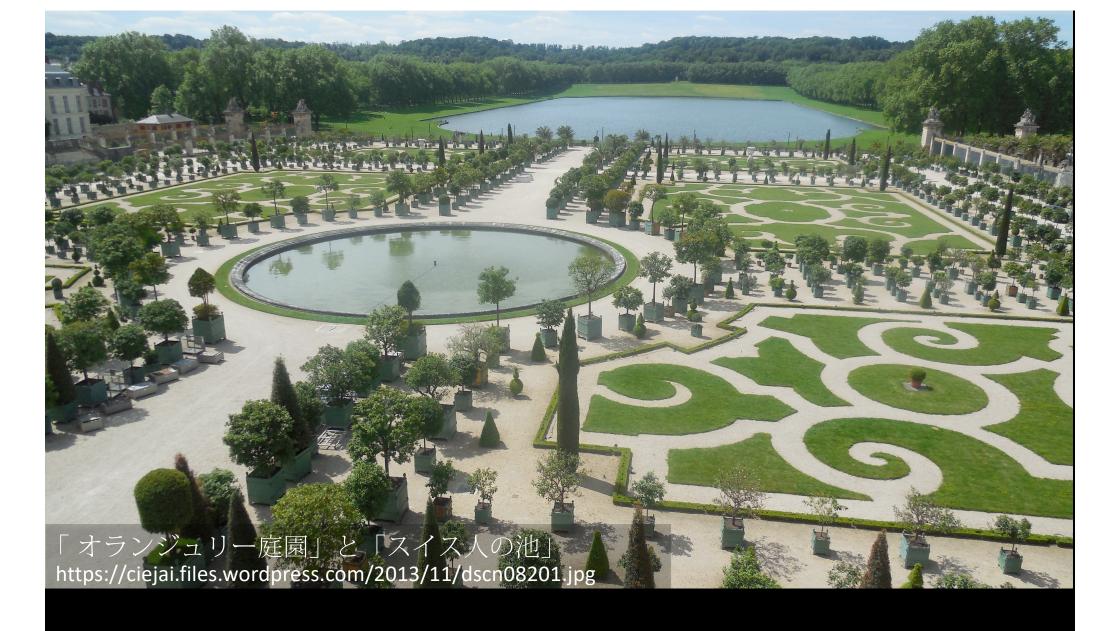
「正殿」

http://bienvenue.chateauversailles.fr/en/accueil

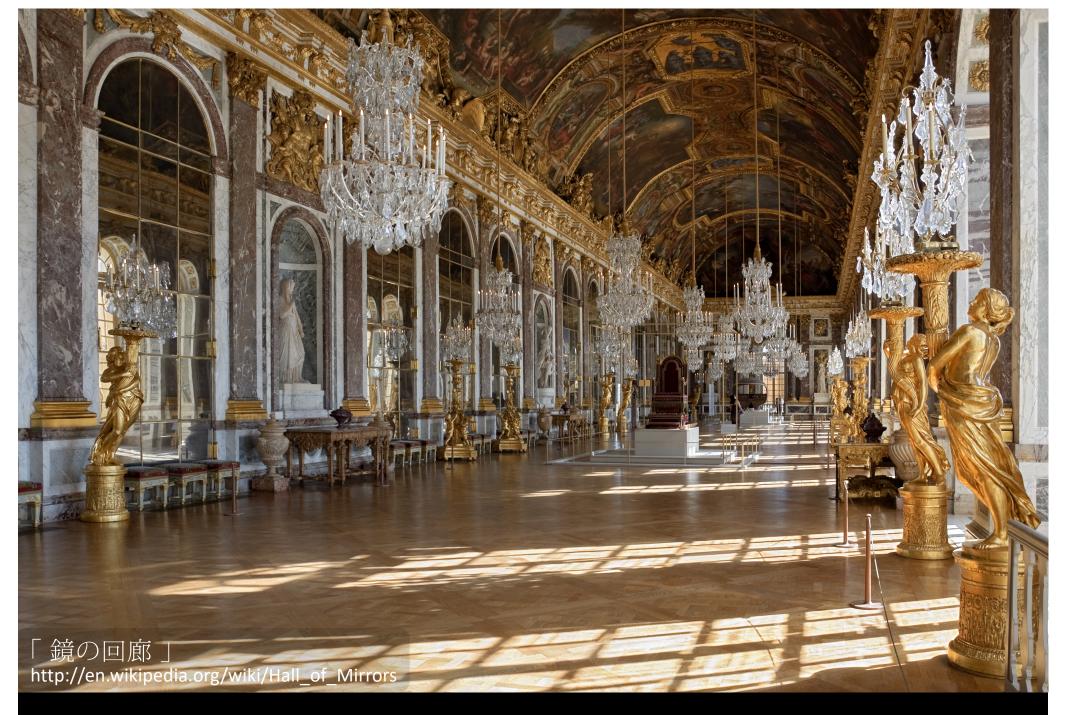
フランス「ブルボン朝」ベルサイユ宮殿



フランス「ブルボン朝」ベルサイユ宮殿

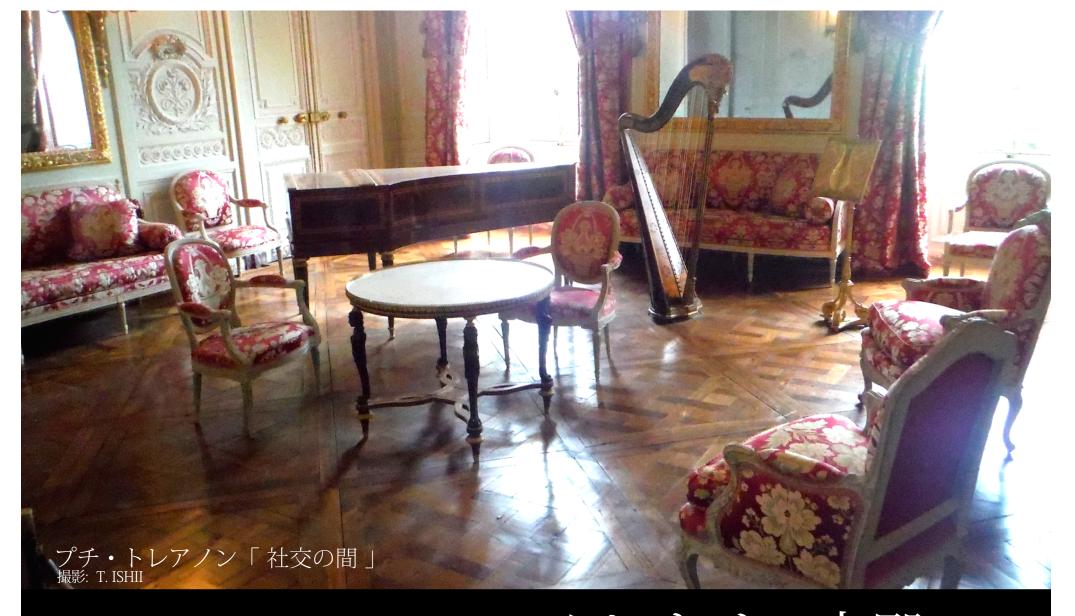


フランス「ブルボン朝」ベルサイユ宮殿



フランス「ブルボン朝」





フランス 「ブルボン朝」 ベルサイユ宮殿



フランス「ブルボン朝」



#### 「王室オペラ劇場」

http://jp.chateauversailles.fr/jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/the-palace/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/le-chateau/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lopera-royal-jp/discover-the-estate/lo

フランス「ブルボン朝」



フランス「ブルボン朝」



Photo récupérée sur le site de l'opéra royal de Versailles

フランス「ブルボン朝」





「『王は願望を述べ、芸術家たちは構想を提出し、役人達は計算し、委員会では協議 が行われた。手職人の一隊、大工、画家、仕立屋、庭師、料理人が動員された。

[中略]数千人の労働者が10万時間働いた、 — それもおそらく一夜のうちに 浪費されるためであった 』 (〔※ リヒャルト・アレヴィン『大世界劇場』より〕」

花火、衣装、食事、建築、噴水、庭園、芝居、踊りなどと並んで

―― こうした壮大な祝祭を演出するために欠かせない小道具の一つが

音楽だったのである」

[岡田暁生:65-66]

バロック音楽の社会的機能は第一に

# 王様を讃える音楽

## ルイ14世 と 作曲家リュリ



ルイ14世 「太陽王」 在位 1643-1715 バレエ好きなフランス国王



ルイ14世の宮廷楽長。イタリア生まれ。 フランス貴族社会で権勢をほしいままにした。 喜劇作家 モリエール (脚本) との共作し、 「コメディ=バレ」を創作。

## ルイ14世 と 作曲家リュリ

#### 映画『王は踊る』

(Le Roi danse, 2000制作, ジュラール・コルビオ監督, ベルギー)

- 作曲家 ジャン=バティスト・リュリの生涯を描いた映画
- 当時の宮廷と音楽との関係がよく描かれている映画
- 1653年に宮廷で自ら「太陽王」に扮して上演した宮廷バレエ『夜』の様子も。
- 貴族の反乱 (フロンドの乱) を制圧した直後の公演であった。
- 『夜』は彼の権力を誇示する機会となり、以後「絶対王政」が開始される。
- 当時、ルイ14世は 15歳。

参考資料 [白石,1991]

※ ルイ14世は背を高く見せるために「ハイヒール」をはくことを好んだ。映画でそれにちなんだ描写もあり。

映画 『王は踊る』 (2000年) より (6分程度)



1653年、15歳のルイ14世が「太陽王」に扮して上演した宮廷バレエ『夜』の様子。 作曲家 リュリは ルイ14世の寵愛を受けて宮廷楽長となり権勢をふるった。 王を讃えるために音楽を書いたリュリにおいて、バロック音楽の社会的側面の一つの 典型をみることができる。

#### バロック音楽の音楽書法的側面

歌詞の内容伝達を重視する音楽

#### 歌詞の内容伝達を重視する音楽

#### 音楽サークル「カメラータ」(1600年頃, イタリア・フィレンツェ)

- ルネサンスの流れでギリシャの古典が研究
- 詩と音楽の理想的融合の範 → ギリシャ悲劇
- ギリシャ悲劇の復興を目指した。
- 作曲家 カッチーニ や ガリレイ (ガリレオの父)など

#### 歌詞の内容伝達を重視する音楽

#### 音楽サークル「カメラータ」(1600年頃, イタリア・フィレンツェ)

- ルネサンスの流れでギリシャの古典が研究
- 詩と音楽の理想的融合の範 → ギリシャ悲劇
- ギリシャ悲劇の復興を目指した。
- 作曲家 カッチーニ や ガリレイ (ガリレオの父)など

#### →「オペラ」の 誕生

#### 歌詞の内容伝達を重視する音楽

- ルネサンス音楽(対位法の音楽)は

歌詞が聞き取れないからバロックでは嫌われた。

一人の歌手と楽器の伴奏の、

歌詞が聞き取りやすい音楽の形が生まれた

→ 「モノディー様式」

オペラの「レチタティーヴォ」と「アリア」へ

#### 【聞き比べ】

パレストリーナ (ルネサンス期,対位法様式)



《ミサ・ナシェ・ラ・ジョイア・*ミア* Missa Nasce La Gioja Mia 》 - Kyrie(1590)

A. スカルラッティ(バロック期, モノディ様式)



アリア《菫 すみれ 》 - 歌劇「ピッロとデメートリオ」より

#### 【概略】

```
ルネサンスにおける古典研究

↓
ギリシャ悲劇の復元 (フィレンツェの音楽サークル「カメラータ」)

↓
歌と伴奏の形 (「モノディー様式」→「レチタティーヴォ」や「アリア」)

↓
感情表現の追求
```

#### 「オペラ」の誕生

世界初の本格的オペラ

オペラ『オルフェオ』(1607)

作曲: クラウディオ・モンテベルディ(1567-1643, イタリア)

世界初の本格的オペラ オペラ『オルフェオ』(1607) 作曲: モンテベルディ

ギリシャ神話における竪琴の達人・詩人オルフェウスの物語を素材とした。 オルフェウスは ムーサの一人 カリオペ の子。アポロンから竪琴をもらい、その達人となる。

#### 【あらすじ】

- ・古代ギリシャ時代、オルフェオ(男) はエウリディーチェと結婚した
- ・しかし、妻エウリディーチェは毒蛇にかまれて死ぬ
- ・ 悲しむオルフェオは神に頼んで 天国から妻の奪取を試みる
- ・神からの条件は、帰路にて妻の顔を見ないことであった
- ・しかし、オルフェオは天国からの帰路に妻の顔を見てしまう
- 妻は消えてしまう。
- ・失意のオルフェオは、その後彼をよく思わぬ女性に八つ裂きにされ殺される。竪琴も捨てられる。
- ・神々の王 ゼウスは、オルフェオの竪琴を天に舞い上げる。それが 星座「こと座」になったという。



世界初の本格的オペラ 『オルフェオ』(1607) 作曲: モンテベルディ

#### バロックにみる「感情表現の追求」・「激情」

イタリア・バロック美術の代表 ベルニーニ 彫刻と建築 『聖女テレジアの法悦』 (1645-1652)

DVD 「:歌劇《オルフェオ》 」[COBO-6250] より





#### バロックの音楽

Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

### バロックの音楽

Q.

バロックの音楽を代表する作曲家といえば?

A . (想定される模範的解答)

J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

or

G.F.ヘンデル Georg Friedrich Händel (1685-1759)

しかし、本当に、彼らの作った音楽こそが、まさにバロック的といえるのか?

## バロックの音楽

Α.

J.S./\(\frac{1}{2}\)/\?

この時代の音楽様式を特徴づけるという点では

バッハは、しかし、

必ずしも 「典型的な作曲家」 とは言い難い。

社会機能的側面

ルネサンス = キリストのための音楽

バロック = 王様のための音楽

**バッハ** = ?

社会機能的側面

ルネサンス = キリストのための音楽

バロック = 王様のための音楽

バッハ = キリストのための音楽 (旧) プロテスタント(ルター派)

音楽書法的側面

ルネサンス(対位法 = 複数の旋律線による音楽)

バロック(歌と伴奏,モノディー)

バッハ ?

音楽書法的側面

ルネサンス(対位法 = 複数の旋律線による音楽)

バロック(歌と伴奏,モノディー,感情表現の美)

バッハ (旋律の重なり、対位法、調和の美)

= バロック音楽の典型的なスタイルではない

### 時代様式がとらえにくい バロック音楽

「バロック音楽史の見取り図をややこしくしているのは、 バッハという『時代の最も偉大な作曲家』が 必ずしも文句無しに『時代の最も典型的な作曲家』 とはいえない点にある」 [岡田:85]

「バッハのイメージでバロック全体を代表させるようなことはしない方がいい」。 「バッハは [※当時すでに] 古風なスタイルになりつつあった |

# ※ 世界初の音楽学校

~ イタリアの港町の孤児院

#### ※ 世界初の音楽学校

#### ~ イタリアの港町の孤児院

- ・イタリアの「ナポリ」と「ヴェネチア」に設立。 (16C)
- •2都市は港町。港町には捨て子が多い。
- ・イタリアは、そのような捨て子に、自立の道をつくるために 音楽学校をつくり、彼らに教育を与えたという。
- ナポリの「ピエタ孤児院」(音楽学校)では、ビバルディが教えていた。
- ・ヴェネチアでは、歌曲『菫(すみれ)』の A.スカルラッティが教えていた。
- ・優秀な生徒は、イタリア・オペラの歌手としてデビューした。このような、孤児の自立のための音楽学校がイタリア・オペラを支えた。

#### 参考文献・さらなる知識のために

松宮秀治 (2008) 『芸術崇拝の思想: 政教分離とヨーロッパの新しい神』 白水社

岡田暁生 (2005)『西洋音楽史』 中公新書

ドナルド.H.ヴァン.エス (1970=1986) 『西洋音楽史:音楽様式の遺産』新時代社

片桐功・他 (1996)『はじめての音楽史』 音楽之友社

石井宏 (2004)『反音楽史:さらばベートーヴェン』新潮社

N.アーノンクール (1982=1997) 『古学とは何か:言語としての音楽』 音楽之友社

白石嘉治 (1991) 「踊る王から見る王へ:ルイ14世治下におけるオペラ再興の一断面」『Les Lettres françaises』 11号、上智大学フランス語フランス文学紀要編集委員会

長谷川 輝男 (2002) 『聖なる王権ブルボン家』 講談社選書メチエ